

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校3年	コミュニケーション英語Ⅲ		一斉・分割	4単位

教科書 English Communication Ⅲ (三省堂)	副読本 Workbook (Advanced) 10分間速読トレーニング センター対策リスニング、速読英熟語
目標・ねらい 1 英語の学習を通じて、様々な問題について興味・関心を深め、自らの考え、意見を持つ。 2 自己表現のためのツール(文法、語彙、論理展開)を身に付ける。 3 自己表現の経験を積むことによって、自己表現力を身に付ける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 【学習方法】 1. 予習 (1)予習プリントを完成 (2)音読 2. 授業中 (1)音読・リスニング (2)予習プリントの確認 (3)本文解説 (含、文の構造の理解、内容理解) 3. 授業後 (1)文法問題の復習やワークブックへの取り組み (2)小テストの実施 (3)音読 【長期休業の課題】 1. イディオム暗記(休み明けにテスト) 2. 長文読解問題 3. 文法・語法問題	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験3回
平常点	40	まとめテスト
		単語テスト、イディオムテスト
		プリント、ワークブック等の提出物、授業態度

年間授業計画表

	単元	目標
前期	Lesson 2 Design for Whom? ・分数表現、不定詞の副詞的用法(形容詞の限定)、連語表現、熟語表現、の復習 ・副詞句、動詞句の復習 中間テスト	・貧困に立ち向かう「デザイン」について学ぶ。 ・「デザイン」ということばの定義を再認識する。 ・世界の貧困の現状を認識する。 ・貧困を解決するデザインについて考える。 ・社会貢献と商業主義のあり方について考え、発表する。
	Lesson 5 Only a Camera Lens between Us ・慣用表現の学習(have no choice but to-, bring oneself to-, be of no useなど) ・再帰代名詞を含む表現(think for oneself など)の学習 期末テスト	・DDRに携わる瀬谷ルミ子の活動を通して、平和のあり方と、その平和にどのように貢献できるかについて考え、発表する。 ・瀬谷ルミ子が現在の道に進むきっかけとなった出来事を読み取る。 ・紛争後の平和構築のおける行程で、必要で大切なことを読み取る。
後期	Lesson 7 Being Bilingual ・代名詞が何を指しているか理解して読む ・倒置を理解する。 ・指示語に気をつけて読む。	・グローバル化された世界で、二言語使用の問題点を理解し、寛容と対話によって争いを回避する道を探る。 ・根拠をあげて自分の意見を述べるができるようになる。
	Lesson 8 Green Revolution, Blue Revolution It is surprising that ~ I can hardly believe that ~ What do you think about ~? What is your expression of ~? How do you feel about ~? 過去の入試問題演習 卒業テスト	・食糧不足と共に深刻な「水不足」に関して、水の利用とともに仮想水(virtual water)の概念を知り、仮想水の国際取引を通して環境問題を考える。 ・驚きを表す表現を身につけると共に相手の意見を問う表現を運用できるようになる。 ・過去の入試問題を解くことで、実際の入試に対応できる力をつける。

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校3年	英語表現Ⅱ		分割	2単位

教科書 CROWN English Expression Ⅱ（三省堂）	副読本 Data Base（桐原書店） Next Stage（桐原書店） その他、家庭学習用の問題集
目標・ねらい 1 高校2年次までに学んだ文型・文法とは異なった切り口で基礎的な英語表現を学ぶ。 2 「書く」活動を通して、依頼文や紹介文の書き方を学び、与えられたテーマについてまとまりのある文章が書けるようにする。 3 過去の入試問題を解き、実際の入試に対応できる力を養う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 【学習方法】 1. 予習 (1) 教科書(プリント)の問題に取り組む。 (2) 問題集(英文法・語法問題)に取り組む。 (3) Data BaseやNext Stageを使って小テスト対策を行う。 2. 授業 (1) 教科書(プリント)や問題集を使って演習問題に取り組み、理解を深める。 (2) 教科書のWritingの課題に取り組む。 3. 授業後 (1) 参考書の該当箇所を読み直し、知識の定着を図る。 (2) 授業で取り組んだ練習問題の復習。 (3) 教科書のWritingの課題の完成。 【長期休業の課題】 Next StageやData Baseの指定された範囲を各自学習し、休み明けにテスト。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験3回
平常点	40	問題集のまとめテスト
		Data Baseテスト、Next Stageテスト
		プリント等の提出物、授業態度

年間授業計画表

	単元	目標
前期	教科書: Lesson 4「小笠原の自然を守ろう」 Part 2	・忠告/必要/提案を表現する。 問題演習とまとめテストによって知識の定着と入試に対応できる力を養う。
	中間テスト	
	教科書: Lesson 5「ナスカの地上絵」	・時間的順序を表現する。 ・つなぎ表現を学ぶ。 問題演習とまとめテストによって知識の定着と入試に対応できる力を養う。
	期末テスト	
後期	教科書: Lesson 7「納豆のおいしい食べ方」	・方法・様態/数量を表現する。 ・言い換え、繰り返しを学ぶ。 問題演習とまとめテストによって知識の定着と入試に対応できる力を養う。
	教科書: Lesson 8「24時間営業に賛成ですか反対ですか」	・賛成・反対の表現方法を学ぶ。 問題演習とまとめテストによって知識の定着と入試に対応できる力を養う。
	卒業テスト	

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校3年	英語会話		Divided	1単位

教科書 None	副読本
目標・ねらい The goals of the Senior 3 English Conversation Class are to help the students improve their English language communication and critical thinking skills, as well as foster an environment where students feel confident in expressing their thoughts and opinions. Students will also be exploring topics in English with the aim of creating international-mindedness and a sense of ownership in the world issues that impact their future. 注意事項(学習方法・長期休業の課題など) In Class: Students will participate in class discussions where they will react to recent news, human interest stories, and other media related to Future World Issues & Current Events. Pair work or group work will be required for some activities and assignments. Students are expected to give presentations in class. Assessment: Assessment for this class is project-based, and the approach is “production-based learning.” Testing and test-based results are not the most important assessment. Project Assignments: – 3 Holiday Projects – Golden Week, Summer, and Winter Holidays – A Speech Project – A Research Project – A Debate Project Exams & Tests: – 2 End of Term Exams (July & December) – 2 Speaking Tests Homework: – Some long homework assignments and some small (“mini”) homework assignments will be required in this class	

評価について

項目	割合	授業時における項目
Projects	50	Used to judge the student's abilities to produce both written and spoken English as well as critical thinking.
In-class Speaking & Participation	20	Used to judge spontaneous speaking & logical thinking skills as well as gauge communicative
Exams & Tests	20	Spontaneous speaking & writing and argument building.
Homework	10	Used to judge the student's abilities to produce written English and think critically.

年間授業計画表

	単元	目標
前期	Unit 1: April – May Focus: Subjective vs. Objective & Logical Fallacies Projects: Golden Week Holiday project. Tests: Speaking Test 1	Review of Subjective vs. Objective thinking, Citations, and Logical Fallacies . Students will spend time in class working on their Unit project, and work on improving their writing. Topics for in-class discussions will revolve around future issues and challenges. Students will discuss which issues they feel are most relevant to their lives, and which issues will have the biggest impact on society and the world. From there, students will choose which issues they want to explore more deeply in their speech project. There will be a short speaking test in which students will be interviewed.
	Unit 2: June – July Focus: Speech, Interview Skills & Discussing University-level topics. Projects: Speech project. Exam: End of Term Exam	Review of Speech skills, as well as some hints and tips to improve. Students will practice interview skills in class. We will also explore the kinds of topics that they may encounter at the university level. There will be an End of Term Exam.
後期	Unit 3: Sept – Oct Focus: Writing a Thesis Statement & Debate Projects: Summer Holiday Project & Final Debate Project Tests: Speaking Test 2	Students will work on researching and preparing their Debate Project. Students will also learn how to craft a thesis statement. There will be another short speaking test in which students will be interviewed.
	Unit 4: Nov – Dec Focus: Argument & Counter-Argument and How to Debate Controversial Topics Projects: None Homework: Review of Senior 3 Exam: End of Term Exam	In the last Unit, students will practice debating difficult and controversial issues. Students will explore current events and topics in Eiken as well. There is no project in this unit, but there will be an End of Term / Graduation Exam.

履修学年	科目	自由選択 (前期のみ)	授業形態	単位数
高校3年	英語研究 I		一斉	1単位

教科書 スクランブル英文法・語法Basic	副読本 大学過去問、センター試験問題
目標・ねらい 1 文法、語法の基礎を確実にする。 2 入試の過去問、センター試験の問題を解けるようにする。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1. 授業前 ・授業で扱った文法項目について復習し、小テストに備える。 ・課題プリントをやる。→ 授業で提出する。 2. 授業 ・前週に学習した文法項目についての小テストを受ける。→ 答え合わせと解説。 ・次の文法項目の説明を聞き、練習問題やる。 3. 授業後 ・授業で扱った文法項目について復習し、その定着を図る。	

項目	割合	授業時における項目
定期試験	70	定期試験2回
平常点	15	提出物(課題プリント)
小テスト	15	数回実施

年間授業計画表

	単元	目標
前期	【文法】 1. 時制 2. 完了 3. 助動詞 4. 仮定法 【Listening】 【長文】 中間テスト	センター試験で最頻出の文法事項を中心にその知識を定着させ、読解力・表現力を高めていく。 1. 2. 英語の時制の概念を理解し、現在形・過去形・現在完了形・過去完了形の使い分けをしっかりと身につける。 3. 助動詞を含むさまざまな表現を身につける。 4. 仮定法の基本を確認し、仮定法を含む重要表現・Ifを用いない仮定法などについて理解を深める。 センターの長文問題をタイプ別に時間を計って取り組む。 センターのリスニングを問題タイプ別に取り組む。
	【文法】 1. 関係代名詞 2. 関係副詞 3. 分詞の用法 【Listening】 【長文】 期末テスト	1. 2. 関係詞の構造を理解する。長文の中で戻らずに意味を理解できるようにする。 3. 分詞の用法を理解し、複雑な文型や後置修飾の英文を円滑に理解できるようにする。 センターの長文問題を時間配分を意識しながら速読力を上げていく。
後期		

履修学年	科目	自由選択 (前期のみ)	授業形態	単位数
高校3年	英語研究Ⅱ		一斉	1単位

教科書	副読本 STRATEGY FULL 80(文英堂)
-----	------------------------------

目標・ねらい 1 大学入試センター試験対策の演習問題を通して、実践的な力を養う。 2 大学入試センター試験予想問題を解くことで、出題傾向を知り、その対策を立てる。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 学習方法 (1) 授業 ア 演習問題をノートに行う。 イ 答え合わせをする。 ウ 意味の分からない単語をノートに書き出す。 (2) 復習・週末課題 ア ノートに書きだした単語の意味、発音、派生語等を調べる。 イ 間違えた問題の解説をノートに書く。 ウ 構文、発音、アクセントを意識しながら音読をする。 エ 記述問題対策シートを行う。 2 長期休業中の課題 なし
--

評価について		
項目	割合	授業時における項目
定期試験	70	定期試験2回
平常点	30	課題、ノートの提出等

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第1回 ～ 第3回	・センター入試の全体像を知る。 ・センター入試の出題形式、語数、配点等を知り、その攻略ポイントを理解する。 ・センター入試の予想問題を取り組み、出題形式に慣れる。
	中間テスト	
	第4回 ～ 第6回	・センター入試の出題形式、語数、配点、攻略ポイント等を理解した上で演習する。 ・第1回～第3回で問題に慣れ、第4回～第6回は解く時間を縮める。 ・センター入試第5問、第6問の英文を精読し、語彙の増強を図り、文法事項の復習をする。
	期末テスト	
後期		

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校3年	現代文B		一斉	2単位

教科書 現代文B（筑摩書房）	副読本 現代文単語（桐原書店） 高校生のための現代思想ベーシック ちくま評論選（筑摩書房）
目標・ねらい ・近代以降の様々な文章を読むことで読解力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・言語活動や表現活動を通して、自己を表現する力を身につける。 ・読書への興味関心を広げ、人生を豊かにする態度を育てる。 ・大学受験を見据えた読解力・思考力・論述力・知識を身につける。 ・小論文の書き方を身につける。	
学習方法など 学習方法 予習 指示された本文を読む（音読・読めなかった漢字、語句などをチェックする）。 分からない言葉を辞書で調べる（その際、調べたことが後で分かるように辞書に印をつける）。 重要漢字の書き取りをする。 形式段落に番号をふり、意味段落に分ける。全体の要旨をまとめる。 与えられた課題（プリント等）をこなす。 復習 ノートやプリントを見直し、本文の内容、構成、表現とその効果、などを把握する。 ノートは板書だけで終わらせず、自分なりにまとめ直す。 改めて本文の要旨をまとめる。課題作文（あるいは小論文）を書く。 問題プリントを解く。 教材に関連した書籍を読み、理解を深める。 課題 単元ごとにプリント等を提出。 ※右の授業計画は状況に応じて変更する可能性がある。 ※種々の小テスト、小論文対策、表現活動・読書活動なども行う予定。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60～80	定期試験3回
平常点	20～40	提出物・漢字・語彙小テスト・発表等

年間授業計画表

	単元	目標
前期	1 評論	1 評論……文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、それを要約する能力を習得するとともに、文章の構成を確認し、表現の特色をとらえる。 2 小説……ストーリーに沿って登場人物の心の動きを的確に読み取りながら、想像力を働かせて主題を読み解く力をつける。
	2 小説	
	中間テスト	
後期	1 評論	1 評論……論理的な文章を読みこむことで、その論理展開を追うだけでなく、そこにこめられた筆者の物の見方・考え方を学び、人間や社会について考えを深める。 2 随想……文章の論旨や、考察の展開の過程を的確に把握し、それをもとに自身の考えを深める力を養う。 3 小論文指導……構成を意識して書く。自分の進路に結びついたテーマについて書く。
	2 随想	
	期末テスト	
	3 小論文指導	
後期	1 評論	1 評論……抽象的な表現や比喻から筆者の思想や主張を読み取り、人間や社会を読み解くための普遍的な概念を導く論法を学ぶ。 2 小説……古典的名作と呼ばれる作品を読み、現代を生きる自分たちと共通する問題意識を発見することで、その作品に潜んでいる普遍性を読み解く。
	2 小説	
	卒業テスト	

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	古典特講		分割	2単位

教科書 改訂版プログレス【読解・構図・鑑賞】古典総演習完成編（いいずな書店）	副読本
目標・ねらい ・古文、漢文を読む能力を養い、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を養う。 ・大学入試に必要な古典文法・読解力を身につける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 授業前に指示された問題を予習する。 授業で学習した重要事項は必ず復習する。 ※右の授業計画は変更の可能性がある。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	80～90	定期試験3回
平常点	10～20	予習の提出 配布プリントの提出 他

年間授業計画表

	単元	目標
前期	十訓抄 古本説話集 郁離子 徒然草 中間テスト	古文・漢文の文法・語彙をおさえる。 内容把握・主題理解を正確に行う。 各時代の文学史を把握する。 問題演習を通じて、実践的な力を養う。
	韓非子 大鏡 俊頼髓脳 先哲叢談 期末テスト うたたね	古文・漢文の文法・語彙をおさえる。 内容把握・主題理解を正確に行う。 各時代の文学史を把握する。 問題演習を通じて、実践的な力を養う。
後期	浜松中納言物語 新語 無名草子 発心集 鼠説 入試対策演習問題 卒業テスト	古文・漢文の文法・語彙をおさえる。 内容把握・主題理解を正確に行う。 各時代の文学史を把握する。 センター試験対策を行う。 問題演習を通じて、実践的な力を養う。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	現代文特講		一斉	2単位

教科書 『プログレス〈読解・論点・探究〉現代文総演習・完成編』（いいずな書店）	副読本
目標・ねらい ・標準以上の現代文読解問題が解けるようになる。 ・評論・小説の読解問題演習を通して、さまざまなものの見方、考え方を理解する。 ・演習を通して、解答の方法・表現の仕方を互いに学ぶ。	
学習方法 予習 授業前に指示された問題について設問を解き、文章を要約する。 語句の意味を調べる。 「文章のどの部分が理解できないか」などを明確にする。 復習 問題の解答がどのように導き出されたか、振り返りを行い、文章・問題について説明できるようにする。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	80～90	定期試験3回。
平常点	10～20	授業テキストの予習・提出。
		適宜、要約文、配布プリントの提出 他。

年間授業計画表

	単元	目標
前期	随想 1～2篇 小説 1～2篇 評論 1～2篇 中間テスト	随想/小説 筆者の主張、登場人物の性格や心情を的確に捉え、設問解答に活かすようにする。 評論 「現代社会」「文化」「芸術(文学)」等の読解の基礎知識となる概念を理解する。 評論問題の考え方を身につける。
	評論 2～3篇 小説 1～2篇 随想 1～2篇 期末テスト	評論 記述問題に対応できるようにする。 小説 心情を理解し、表現の意図をつかむ。 随想 テーマと筆者の関係について、筆者の考えを読み取る。
後期	評論 6～7篇 随想・小説 2～3篇 私大型、センター型演習問題 卒業テスト	問題演習を通じて、実践的な力を養う。

履修学年	科目	自由選択	授業形態	単位数
高校3年	古文研究		一斉	2単位

教科書 高等学校 古典B（明治書院）	副読本 読解をたいせつにする体系古典文法 （数研出版）
目標・ねらい ・古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・作品に表れた人間・社会・自然などに対する思想や感情を読み取ることで物の見方、感じ方、考え方を広くし、人生を豊かにする態度を育てる。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 学習方法 古文 授業前に指示された本文をノートに写し、単語に分ける。 できる範囲で自分なりに現代語訳しておく。 分からない単語を古語辞典で調べる。 本文を声に出して読む。 授業後は、作品の教科書に掲載されていない部分や関連した書籍を読んで理解を広げる。 ※学年の状況に応じて単元が前後することがある。 ※9～10月に集中的に演習を行い、授業中の実践や成果物を評価するため、秋中間テストは行わないものとする。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	70～80	定期試験3回
平常点	20～30	予習の取り組み方・授業態度

年間授業計画表

	単元	目標
前期	用言、助動詞、助詞の確認 物語 日記 中間テスト	・これまでに学習した用言（動詞・形容詞・形容動詞）の文法事項を確認する。 ・話の展開を理解し、読み解く力をつける。 ・古人の生き方を理解し考える。 ・種類や形式の異なる著名な作品を読むことによって、中古・中世の文学の流れをつかむ。
	物語 期末テスト 古典文法の復習	・作者のものの見方や考え方を捉え、作品に通底する思想を理解する。 ・長編の物語を読み進めながら、人物関係を整理し、さまざまな場面が連鎖的に展開する特色をとらえる。
後期	物語 和歌 評論 卒業テスト	・今までに学習した古文の知識をふまえ、語句の意味を正しくとらえ、文脈に沿って読解する。 ・時代や作者、論ずる対象によって異なる多様な世界を味わう。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	世界史特講		一斉	4単位

教科書 詳説世界史（山川出版社）	副読本 ニューステージ世界史詳覧（浜島書店） ゼミナール世界史（浜島書店）
目標・ねらい 歴史を考察する基本的な方法を理解するとともに、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付ける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 学習方法 （1）進度のはやく、各定期試験の内容が多くなるため、日頃の学習計画を立て、授業があった日には復習をしっかり行うこと。 （2）基礎的事項を頻繁に小テストで確認するため、日頃から準備をしておくこと。 （3）授業進度にあわせて、自ら問題集を解いていくこと。 2 定期テスト （1）定期試験は入試問題を想定した出題となるので、基礎の定着だけでなく応用を想定した学習を行うこと。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験3回
平常点	40	プリント提出・小テスト・課題提出など

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第11章 欧米における近代国家の発展 第12章 アジア諸地域の動揺 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 第1章 オリентと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界 中間テスト	・近現代史を中心に国際関係の推移について理解を深める。 ・ヨーロッパを中心として、高2で学習した内容を深める。
	第13章 帝国主義とアジアの民族運動 第14章 二つの世界大戦 第4章 イスラーム世界の形成 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第6章 東アジア世界の展開 期末テスト	・近現代史を中心に国際関係の推移について理解を深める。 ・中世の東アジア、西アジア、ヨーロッパについて、高2で学習した内容を深める。
後期	第14章 二つの世界大戦 第15章 冷戦と第三世界の成立 第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 卒業テスト	・現代社会における世界史的な問題について着目して、その原因について理解を深める。 ・近世ヨーロッパを中心として、高2で学習した内容を深める。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	日本史特講		一斉	4単位

教科書 詳説日本史（山川出版）	副読本 最新日本史図表（第一学習社） 復習と演習 日本史テスト改訂版（山川出版社）
目標・ねらい 歴史を考察する基本的な方法を理解させるとともに、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付ける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 学習方法 (1)進度がはやく、各定期試験の内容が多くなるため、日頃の学習計画を立て、授業があった日には復習をしっかりと行うこと。 (2)基礎的事項を頻繁に小テストで確認するため、日頃から準備をしておくこと。 (3)授業進度にあわせて、自ら問題集を解いていくこと。 (4)高2の復習と近現代史を併せて学習する。 2 定期テスト (1)定期試験は入試問題を想定した出題となるので、基礎の定着だけでなく応用を想定した学習を行うこと。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験3回
平常点	40	プリント提出・小テスト・課題提出など

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治と国風文化 第9章 近代国家の成立 中間テスト	・古代の日本について、高2で学習した内容の確認を行う。 ・開国、幕府の滅亡と新政府の成立について理解する。 ・明治時代の近代日本の歩みについて、国際環境と関連付けて理解する。
	第4章 中世社会の成立 第5章 武家社会の成長 第6章 幕藩体制の確立 第10章 近代日本とアジア 期末テスト	・中世から近世の日本について、高2で学習した内容の確認を行う。 ・大正デモクラシー期の日本について、また、帝国主義列強の一員として国際政局に登場した日本について理解する。 ・対外政策の推移と戦時体制の強化など、第二次世界大戦と日本とのかかわりについて理解する。
後期	第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺 第9章 近代国家の成立 第11章 占領下の日本 第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本	・近世から近代の日本について、高2で学習した内容の確認を行う。 ・大戦後の日本の再出発や、その後の政治の推移と新しい外交関係の確立について理解する。 ・戦後の日本経済の発展と国民生活の向上について理解する。 ・現代世界の動向と日本の課題および役割について理解する。
	卒業テスト	

履修学年	科目	自由選択	授業形態	単位数
高校3年	地理特講		一斉	4単位

教科書 詳解地理B（二宮書店）	副読本 詳解現代地図（二宮書店） 地理の完成（山川出版社）
目標・ねらい センター試験や国公立2次、私立大学の過去問題・模擬問題を中心に実践的な演習を行い、内容の理解を深めるとともに、大学入試問題への対応能力を身につける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 授業内容 (1)演習問題は、授業時に配布する。 (2)授業では問題の解説などを行うので、予習を必ず行うこと。その際、問題に解答するだけでなく、関連事項も含め調べてくること。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験3回
平常点	40	演習問題・課題提出など

年間授業計画表

	単元	目標
前期	センター試験問題演習	・地理の学習内容の理解を深めるとともに、大学入試問題への対応能力を身につける。
	中間テスト	
	国公立2次・私立大試験問題演習	・地理の学習内容の理解を深めるとともに、大学入試問題への対応能力を身につける。
	期末テスト	
後期	国公立2次・私立大試験問題演習	・地理の学習内容の理解を深めるとともに、大学入試問題への対応能力を身につける。
	卒業テスト	

履修学年	科目	必修選択	授業形態	単位数
高校3年	地歴研究		一斉	2単位

教科書 詳説日本史（山川出版） 詳説世界史（山川出版） 地理A（二宮書店）	副読本 なし
目標・ねらい センター試験の過去問題・模擬問題を中心に実践的な演習を行い、内容の理解を深めるとともに、大学入試問題への対応能力を身につける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 「日本史研究」・「世界史研究」または「地理研究」を選択する。 授業内容 (1)演習問題は、授業時に配布する。 (2)授業では問題の解説などを行うので、予習を必ず行うこと。その際、問題に解答するだけでなく、関連事項も含め調べてくること。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験3回
平常点	40	小テスト・課題提出など

年間授業計画表

	単元	目標
前期	センター試験問題演習	・日本史、世界史または地理の学習内容の理解を深めるとともに、大学入試問題への対応能力を身につける。
	中間テスト	
	センター試験問題演習	・日本史、世界史または地理の学習内容の理解を深めるとともに、大学入試問題への対応能力を身につける。
	期末テスト	
後期	センター試験問題演習	・日本史、世界史または地理の学習内容の理解を深めるとともに、大学入試問題への対応能力を身につける。
	卒業テスト	

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
第3学年	現代社会		一斉	2単位

教科書 現代社会（東京書籍）	副読本 最新現代社会資料集2018（第一学習社）
目標・ねらい 現代社会における人間と文化、環境と人間生活、現代の政治経済、グローバル化に伴う人類の課題を、先人から学びとった倫理的思考を深めさせたうえで、現代そして将来の人間としての在り方、生き方を考察していく。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 学習方法 (1)センター試験科目である「現代社会・倫理政経」選択を考え、授業内に反映させる。 (2)板書事項はすべてプリントで配布するため、授業時間内に用語の記入など、しっかりと理解を深めること。 (3)单元ごとに課題プリントを配布するので提出期限を守り基礎知識の定着をはかること。 (4)グループ学習やプレゼンテーション形式での発表を行うことがあるため、探究心を持ち、積極的な態度で臨むこと。 2 定期テスト (1)過去のセンター試験「現代社会」「倫理」「政治経済」を含めて問題を作成する。 (2)記述形式もあるため、短時間で要旨をまとめる、意見を論述する練習もしておくこと。 3 その他 (1)新聞を読むこと。 (2)意見を持つと同時に根拠を示す習慣を持つこと。 (3)夏期休業中に税の作文を課題として提示するので、身近な生活の中で税について常に関心を持つようにしておくこと。	

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験3回
平常点	40	課題提出・小テスト・税の作文・発表など

年間授業計画表

	単元	目標
前期	<倫理的分野> 第1章 青年期の課題と自己形成 1 青年期の意義 2 青年期の課題と生き方 第5章 現代の課題を考える 3 地域社会 4 情報社会 中間テスト	・人生における青年期の意義や意味、青年期の特徴や課題を理解したうえで、自身の主体的に生きる意味を考察する。 ・現代社会における新しい諸問題を倫理的見地から捉えるとともに、身近なこととして考える姿勢を身につける。
	7 国際平和と人類の福祉 第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 1 日本人の精神風土 2 外来思想と日本の伝統思想 期末テスト	・日本人の考え方や生き方、風土との関連、固有文化と外来文化の受容が現代日本人の特徴を形成していることを理解する。
後期	<現代社会分野(経済)> 第4章 現代の経済と国民福祉 1 経済のしくみ 2 変化する日本経済 3 豊かな生活の実現 卒業テスト	・現代社会における経済のしくみを理解する。 ・経済中心主義の結果おこる新しい諸問題を理解するとともに、自らの判断力を養う。 ・グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向について理解を深める。 ・国際社会における日本の果たすべき役割について考察する。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	政治・経済		一斉	2単位

教科書 現代 政治・経済 （清水書院）	副読本 最新現代社会資料集2018（第一学習社）
目標・ねらい 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸問題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 学習方法 (1)政治分野と国際政経分野が中心であり、経済分野は必修科目の現代社会で学習する。 (2)板書事項はすべてプリントで配布するので、必ずファイルを用意すること。 (3)中3公民での知識を前提として授業を進めるため、予め教科書を読み、授業に臨むこと。 2 定期テスト (1)論述形式の出題があるので、日常から制限時間内に意見がまとめられるように練習しておくこと。 3 その他 (1)新聞を読むこと。 (2)時事問題をテーマにすることが多いので、新聞・ラジオ・テレビなどマスメディアからの情報に対し、常に耳を傾けておくこと。 (3)毎週授業のはじめに、時事問題や、前時の授業の学習内容に関するミニテストを行う。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験3回
平常点	40	課題・レポート・小テストなど

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原理 第2章 日本国憲法と国民主権	・政治、権力、国家、法、主権などの基礎概念を確認し、政治と国民、個人との関わりを理解する。 ・近代民主政治の獲得、人権保障の拡大の歴史的経過及びその内容を理解する。 ・日本国憲法を大日本帝国憲法と比較しながら基本原理を含むその性格を理解する。 ・自由権及び社会権の獲得とその内容に関して理解する。
	中間テスト	
	第3章 日本国憲法と平和主義 第4章 日本国憲法と人権保障	・参政权と請求権、新しい人権と新たな動きに関して具体的に理解する。
	期末テスト	
後期	第5章 日本の政治機構 第6章 現代の日本の政治 第7章 国際政治と日本	・国民のための政府という概念を持ち、三権分立とその機構である国会、内閣、裁判所のしくみ、さらに地方自治の役割を理解する。 ・議会制民主主義における政党の役割と意義、選挙のしくみを理解するとともに、現代における課題を考察する。 ・国際政治の動向、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、日本の防衛を含む安全保障の問題について理解する。 ・国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察する。 ・国際政治の特質や国際紛争の諸要因について探求する。
	卒業テスト	

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	倫理		一斉	2単位

教科書 倫理（東京書籍）	副読本 なし
目標・ねらい 現代社会における価値と倫理の特質を理解させるとともに、「よりよい生き方」を目指して人間社会の根底にある普遍的な「生きること」を、主体的に思考する能力と態度を養う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 学習方法 (1)「現代社会」の内容と重複する部分は、割愛することもある。 (2)ギリシャ哲学から始まり、様々な思想・哲学を学んでいくが、基本的な知識の習得にとどまることな く、自らへの問いかけと社会への問いかけを心がけていくこと。 (3)定期テストの間には、数回のレポートや課題提出がある。 単元により授業で意見の発表も実施する。 2 定期テスト (1) 論述形式の出題もある。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期試験3回
平常点	40	意見発表・レポート・課題提出など

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第2章 人間としての自覚 1 人間とは何か 2 ギリシアの思想 3 キリスト教 4 イスラーム	・より豊かな自己実現のためには、生きることについての主体的な思索が必要であることを理解する。 ・ギリシャ哲学の基本的な内容を理解する。 ・宗教が人生にどのような意味を持つか考え、キリスト教、イスラームの基本的な内容を理解する。
	中間テスト	
	5 仏教 6 中国の思想	・仏教の基本的な内容を理解する ・中国思想の基本的な内容を理解する。 ・日本の長い歴史の中で受け継がれた独自の考え方や感じ方を理解し、日本思想の成り立ちを理解する。
	第3章 国際社会に生きる日本人の自覚	
後期	期末テスト	
	第4章 現代を生きる人間の倫理 2 人間の尊厳 3 民主社会の倫理 4 新たな人間像の模索	・先人たちが西洋の近代思想をどのように受容し、統合していったかを理解する。 ・西洋における人間尊重の歴史を理解し、代表的な思想家の基本的な内容を理解する。 ・現代の諸問題を自分のこととして考える姿勢を身につける。
	卒業テスト	

履修学年	科目	自由選択	授業形態	単位数
高校3年	数学Ⅲ		一斉	6単位

教科書 新編数学Ⅲ（数研出版）	副読本 3TRIAL 数学Ⅲ（数研出版）
目標・ねらい ・微分積分でも取り上げる楕円と双曲線を、予め2章で学ぶ。円や直線を極方程式で表す。 ・極限を知り、等比数列の無限個の項の和を考える。 ・微分では3次関数のグラフを描き、積分では回転体の体積を求める。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ○科目説明 (1)「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」の単位未修得者は、本科目を選択できない。 ○定期試験について (1)授業内容を中心に出题する。入試レベルの問題も出题する。 (2)試験当日に、問題集を提出すること。 ○日々の学習について (1)予習として、「教科書の例題を解く」と良い。 (2)復習として、「その日のうちに問題集を解いて まる付けと間違い直し」をする。 (3)考え方の基盤を確立するだけでなく、応用レベルの技能の習熟を得ることを目的とする。 (4)長期休業中には、副読本の問題集を応用レベルまで計画的に取り組むこと。 (5)各教室に置いてある「数学検定の完全対策問題集(日本実業出版)」を自由に活用する。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期テスト 年3回
平常点	40	プリント・問題集・テスト直し等の提出物

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第3章 関数 分数関数 無理関数 逆関数 合成関数 第4章 極限 数列の極限 関数の極限 第5章 微分法 微分係数と導関数 いろいろな関数の導関数 中間テスト	・分数と無理の関数を理解し、グラフが描ける。 ・収束と発散について理解する。 ・特性方程式と漸化式を活用する。 ・部分和を理解し、収束を活用する。 ・微分可能を理解する。 ・微分の計算に習熟する。
	第6章 微分法の応用 接線の方程式 関数の値の変化・関数のグラフ 方程式・不等式への応用 第7章 積分法とその応用 不定積分と定積分 面積と体積 期末テスト	・第2次導関数を利用して、正しいグラフを描く。 ・不等式の証明を理解する。 ・速度と加速度の関係を知る。 ・積分の計算に習熟する。 ・偶関数と奇関数の特徴を考える。 ・囲まれた部分の面積や、回転体の体積を求める。
後期	第1章 複素数平面 複素数平面 複素数の極形式 ド・モアブルの定理 極方程式 第2章 式と曲線 § 2次曲線 放物線 楕円 双曲線 平行移動・2次曲線と直線 第2章 式と曲線 § 媒介変数表示と極座標 媒介変数表示 極座標 極方程式 コンピューターの利用 大学入試演習 卒業テスト	・複素数平面を利用した複素数のもうひとつの表し方を学び、複素数の積や商の計算に利用できる。 ・座標平面上の点の回転移動について、複素数を用いて考察する。 ・軌跡の考えを利用して「放物線・楕円・双曲線」の方程式を導く。また、その概形を描ける。 ・複雑な方程式で表された2次曲線を、平行移動を利用して考察する。 ・媒介変数を理解する。 ・直交座標で表された点の極座標を求める。 ・条件を満たす2次曲線を極方程式で表す。
	以下余白	以下余白

履修学年	科目	自由選択	授業形態	単位数
高校3年	数学ⅠA研究		一斉	2単位

教科書 シニア数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）	副読本 なし
目標・ねらい ・高校1年で学習した数学Ⅰ・Aの範囲の入試問題に触れ、受験に対応できる力を養う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ○科目説明 (1)「数学Ⅰ」「数学A」の単位未修得者は、本科目を選択できない。 (2)「数学Ⅰ」「数学A」の、教科書章末レベル問題が解けないと修得が困難である。 (3)本授業を選択できない、「数学Ⅲ」選択者対象の希望補習を同時に展開する。 ○定期試験について (1)入試レベルの問題を中心に出题する。 ○日々の学習について (1)予習をするのが前提の授業を行う。必ず解いてくること。 (2)家庭学習で理解できなかったポイントを整理しておき、授業で補う形態をとること。 (3)センター試験などの入試レベルの問題を配布するので、計画的に取り組むこと。 (4)各教室に置いてある「数学検定の完全対策問題集(日本実業出版)」を自由に活用する。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期テスト 年3回
平常点	40	プリント・問題集・テスト直し等の提出物

年間授業計画表

	単元	目標
前期	「数学Ⅰ」 第1章 数と式 第2章 2次関数 第3章 図形と計量 中間テスト	・置換を利用して因数分解を解く。 ・関数についての理解を深め、さまざまな方程式・不等式の問題に応用できる。 ・三角比の理解を深め、図形の問題に活用できる。
	第4章 データの分析 「数学A」 第5章 場合の数と確率 第6章 図形の性質 期末テスト 第7章 整数の性質	・箱ひげ図をかいて、データを分析できる。 ・高度な個数の処理・確率の考えを身につける。 ・チェバの定理、メネラウスの定理を活用する。 ・ユークリッドの互除法を活用する。
後期	数学ⅠAの入試問題演習 卒業テスト	・センター試験及び私大・国公立2次の過去問が解ける。
	以下余白	以下余白

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	数学ⅡB研究		一斉	2単位

教科書 シニア数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）	副読本 なし
目標・ねらい ・高校2年で学習した数学Ⅱ・Bの範囲の入試問題に触れ、受験に対応できる力を養う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ○科目説明 (1)「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」の単位未修得者は、本科目を選択できない。 (2)「数学Ⅱ」「数学B」の教科書章末レベル問題が解けないと修得が困難である。 ○定期試験について (1)入試レベルの問題を中心に出题する。 ○日々の学習について (1)予習をするのが前提の授業を行う。必ず解いてくること。 (2)家庭学習で理解できなかったポイントを整理しておき、授業で補う形態をとること。 (3)センター試験などの入試レベルの問題を配布するので、計画的に取り組むこと。 (4)各教室に置いてある「数学検定の完全対策問題集(日本実業出版)」を自由に活用する。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期テスト 年3回
平常点	40	プリント・問題集・テスト直し等の提出物

年間授業計画表

	単元	目標
前期	「数学Ⅱ」 第8章 式と証明 第9章 複素数と方程式 第10章 図形と方程式 中間テスト	・公式などを含めた基本事項を確認し、入試レベルの問題を解く。 ・相加平均・相乗平均を使った証明ができる。 ・2次方程式の解と係数の関係、剰余の定理を活用できる。
	第11章 三角関数 第12章 指数関数・対数関数 第13章 微分法・積分法 期末テスト 「数学B」 第14章 ベクトル	・定義からグラフを描き、応用問題に触れ入試レベルの問題を解く。 ・微分を元に積分の概念を捉え、応用に触れ、入試問題が解ける。 ・平面・空間把握のセンスを磨き、入試問題が解ける。
後期	第15章 数列 数学ⅡBの入試問題演習 卒業テスト	・いろいろな数列に触れ、入試問題が解ける。 ・センター試験及び私大・国公立2次の過去問が解ける。
	以下余白	以下余白

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	物理		一斉	4単位

教科書 改訂 物理（数研出版）	副読本 セミナー「物理基礎＋物理」（第一学習社） センター対策チェック＆演習「物理」（数研出版）
目標・ねらい 物理的な事象・現象についての観察、実験や課題研究を行い、自然に関する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 復習を重視し、問題演習を欠かさないよう努める。 2 授業中の小テストを重視し、基礎力の向上を図る。 3 多くの生徒実験、演示実験を通して、物理現象の理解を深める。 4 物理で受験する生徒は、長期休暇を利用し、問題演習を中心とした補習に参加する。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	中間テスト・期末テスト
平常点	40	①小テスト
		②問題集ノートの提出
		③課題・実験レポートなどの提出

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第2章 音の伝わり方 1.音の伝わり方 2.音のドップラー効果 第3章 光 1.光の性質 2.レンズ 3.光の干渉と回折 中間テスト	音波の反射・屈折・回折・干渉の各現象を、主として実験・観察によって理解する。 波源と観測者とが相対的に運動しているときには、観測者が受ける振動数は波源本来の振動数とは異なることを理解する。音源が動く場合には、観測者の運動に関係なく波長が変化することを理解する。 単色光と白色光の違いを理解する。光にも反射・屈折の法則が成りたつことを理解する。スペクトルについて実験により確認する。 レンズがつくる像を図および実験を通して理解する。また、写像公式との関係を理解する。 ヤングの実験、薄膜による光の干渉等について、実験を通して理解する。
	第4編 電気と磁気 第1章 電場 1.静電気力 2.電場 3.電位 4.物質と電場 5.コンデンサー 第2章 電流 1.オームの法則 2.直流回路 3.半導体 第3章 電流と磁場 1.磁場 2.電流のつくる磁場 期末テスト	電荷のまわりのできる電場について学び、電場と電位との関係を理解する。 既習事項と関連させながらコンデンサーを理解する。電気容量、極板間に挿入された誘電体のはたらき、および誘電率、比誘電率を理解する。 電流の向きと電流の大きさについて学び、導体を流れる電流の大きさが電圧に比例することより、電気抵抗を理解する。 直線電流が周囲につくる磁場、円形電流が円の中心につくる磁場、ソレノイドがその内部につくる磁場について、実験・観察をふまえて、各場合の電流・磁場の関係を理解する。
後期	3.電流が磁場から受ける力 4.ローレンツ力 第4章 電磁誘導と電磁波 1.電磁誘導の法則 2.交流の発生 3.自己誘導と相互誘導 4.交流回路 5.電磁波	電流が磁場から受ける力、その力の向きをしっかりと把握する。電流が磁場から受ける力の大きさは、周囲の物体の「透磁率」の大小によることを理解する。 実験により電磁誘導の現象を理解する。 磁場を横切る導線に生じる誘導起電力について理解する。 交流の発生のしくみ、交流の実効値について、その意味をしっかりと理解する。
	第5編 原子 第1章 電子と光 1.電子 2.光の粒子性 3.X線 4.粒子の波動性 第2章 原子と原子核 1.原子の構造とエネルギー準位 2.原子核 3.放射線とその性質 4.核反応と核エネルギー 5.素粒子	物質と原子に関する現象を観察、実験などを通して探究し、物質の物理的性質が原子や分子の運動によってもたらされることを理解する。 光や電子の波動性と粒子性、原子や原子核、素粒子における現象を、観察、実験などを通して探究し、量子的な考えなど基本的な概念や原理・法則を理解する。
	物理学が築く未来 卒業テスト	これまでの学習内容が、現在における最先端の研究や産業などの基盤となっていることを、具体例を通して理解する。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	化学		一斉	4単位

教科書 高等学校 化学 （第一学習社）	副読本 五訂版 スクエア最新図説化学 （第一学習社） セミナー化学基礎＋化学 （第一学習社）
目標・ねらい ・化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てる。 ・基本的事項の理解を深め、物理化学的な概念や原理・法則を理解させ、基本的な概念や原理・法則を学習する。 ・日常生活に用いられる化学物質について理解を深め、科学的な自然観を育成する。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1授業プリントの作業で内容把握を行う。 2授業中に小テストを行い、基礎力の向上を図る。 3問題演習のためのプリントを行い、実力を養う。 4全員がセンター試験レベルのセミナー化学基礎・化学の基本～発展例題までをマスターする。 5化学受験をする者は、長期休暇等を利用し、自己の計画に基づいて問題集をくり返し学習する。 また、問題演習を中心とした補習に参加する。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	中間テスト・期末テスト
平常点	40	①小テスト
		②問題集ノートの提出
		③課題・実験レポートなどの提出

年間授業計画表

	単元	目標
前期	無機物質 2典型金属元素の単体とその化合物 3遷移元素の単体とその化合物 物質の状態 2物質の三態の変化 3気体の性質 中間テスト	・典型金属元素と遷移元素の性質や反応を周期表に関連づけて理解する。 ・無機物質を日常生活および化学工業に関連づけて理解する。 ・物質の三態を粒子の集合状態の違いと捉えることを理解する。 ・気体の法則を理解し、熱運動の違いとして捉えることを理解する。
	4溶液の性質 有機化合物 1有機化合物の特徴と構造 期末テスト 2脂肪族炭化水素 3酸素を含む脂肪族化合物 4芳香族化合物	・希薄溶液の性質を理解する。 ・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・有機化合物の性質が官能基によって特徴づけられることを理解する。 ・有機化合物の性質や反応性について日常生活に関連づけて理解する。
後期	V 物質の変化と平衡 1物質とエネルギー 2化学反応の速さ 3化学平衡 VI 高分子化合物 1合成高分子化合物 2天然高分子化合物 3高分子化合物と人間生活 卒業テスト	・化学変化を熱エネルギーの出入りの観点から理解する。 ・熱化学方程式が書けるようにする。 ・ヘスの法則を理解する ・化学反応の速さと化学平衡についてその数量的な見方・考え方を理解する。 ・化学反応の速度を変える条件を理解する。 ・平衡の移動、平衡定数を理解し、反応の進行を考察することができる。 ・天然高分子の糖とタンパク質を理解する。 ・糖類の種類・構造と性質を理解する。 ・タンパク質の種類・構造と性質を理解する。 ・日常生活で使用する物質を化学的に捉えることを理解する。 ・食品の栄養素を化学物質として理解する。 ・金属、無機高分子、合成高分子など日常生活で使用する物質の特性と用途を理解する。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	生物		一斉	4単位

教科書 生物（東京書籍）	副読本 セミナー「生物基礎＋生物」（第一学習社） サイエンスビュー生物総合資料（実教出版）
目標・ねらい 1 「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。 2 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 問題演習のためのプリントを行い、実力を養う。 2 定期テスト範囲のノートと問題集を提出する。 3 観察や実験を行い、生物現象への理解を深め、レポートを作成する能力を養う。 4 長期休業中は、課題に取り組む。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	中間テスト・期末テスト
平常点	40	提出物(レポート・問題集・ノート・プリントなど)
		小テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	第4編 生物の環境応答 動物の刺激の受容と反応 動物の行動 植物の環境応答 中間テスト	環境の変化に生物が反応していることについて観察し、実験などを通して探求し、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。
	第5編 生態と環境 個体群と生物群集 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 生態系と生物多様性 期末テスト	生物の個体群と群集及び生態系について観察、実験などを通して探求し、それらの構造や変化の仕組みを理解させ、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。
後期	第6編 生物の進化と系統 生命の起源と生物の変遷 進化のしくみ 生物の系統	生物の進化の過程とその仕組み及び生物の系統について、観察、実験などを通して探求し、生物界の多様性と系統を理解させ、進化についての考え方を身に付ける。
	卒業テスト	

履修学年	科目	自由選択 (前期のみ)	授業形態	単位数
高校3年	理科学研究 I (化学)		分割	1単位

教科書 化学基礎 (第一学習社)	副読本 ビーライン化学基礎 (第一学習社) プリント類など
目標・ねらい ・化学基礎の総復習を行う。 ・センター試験のための演習を行い、センター試験対策を行う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 化学基礎の基本事項の確認と習熟を行う。 2 問題演習のためのプリントを行い、実力を養う。また、問題集を自発的に解く習慣を身につける。 3 授業中に小テストを行い、力の定着を図る。 4 定期テスト範囲のノートを提出する。 5 長期休業中は、課題に取り組む。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期テスト1回
平常点	40	提出物(レポート・問題集・ノート・プリントなど)
		小テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	化学基礎の総復習を行う。 センター試験の問題演習を行う。 (中間テストは試験期間中には行わない。)	教科書の内容を完全に理解する。 センター試験レベルの問題が解けるように理解する。
	期末テスト	
後期		

履修学年	科目	自由選択 (前期のみ)	授業形態	単位数
高校3年	理科学研究Ⅱ(生物)		分割	1単位

教科書 生物基礎　（啓林館）	副読本 改訂版　大学入試センター試験対策チェック＆演習　生物基礎(数研出版) プリント類など
目標・ねらい　生物基礎の総復習を行う。 ・センター試験のための演習を行い、センター試験対策を行う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1　生物基礎の基本事項の確認と習熟を行う。 2　問題演習のためのプリントを行い、実力を養う。また、問題集を自発的に解く習慣を身につける。 3　授業中に小テストを行い、力の定着を図る。 4　定期テスト範囲のノートを提出する。 5　長期休業中は、課題に取り組む。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期テスト1回
平常点	40	提出物(レポート・問題集・ノート・プリントなど)
		小テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	生物基礎の総復習を行う。 センター試験の問題演習を行う。 (中間テストは試験期間中には行わない。)	教科書の内容を完全に理解する。 センター試験レベルの問題が解けるように理解する。
	期末テスト	
後期		

履修学年	科目	自由選択 (前期のみ)	授業形態	単位数
高校3年	理科学研究Ⅲ(物理)		分割	1単位

教科書 新編物理基礎(数研出版)	副読本 改訂版 大学入試センター試験対策チェック&演習 物理基礎(数研出版) 2015～2018年のセンター試験およびセンター追試の 物理基礎の問題
目標・ねらい 物理基礎の総復習を行う。 ・センター試験のための演習を行い、センター試験対策を行う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 物理基礎の基本事項の確認と習熟を行う。 2 問題演習のためのプリントを行い、実力を養う。また、問題集を自発的に解く習慣を身につける。 3 授業中に小テストを行い、力の定着を図る。 4 定期テスト範囲のノートを提出する。 5 長期休業中は、課題に取り組む。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	60	定期テスト1回
平常点	40	提出物(レポート・問題集・ノート・プリントなど)
		小テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	物理基礎の総復習を行う。 センター試験の問題演習を行う。 (中間テストは試験期間中には行わない。)	教科書の内容を完全に理解する。 センター試験レベルの問題が解けるように理解する。
	期末テスト	
後期		

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	音楽Ⅲ		一斉	4単位

教科書 高校の音楽3 （音楽之友社）	副読本 なし
目標・ねらい 音楽の諸活動を通して、個性豊かな表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高めるとともに、音楽に対する豊かな感性と音楽を愛好する心情を養う。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など)	

評価について

項目	割合	授業時における項目
関心・意欲・態度・鑑賞の能力	40	定期テスト・提出物・プリント
表現の工夫や技能	60	実技テスト

年間授業計画表

	単元	目標
前期	演奏	・各専門分野の演奏法と技術の向上をはかる。
	楽典	・音楽理論とその実習について学ぶ。
	聴音・ソルフェージュ	・音の聴き取りと正しい音程の歌唱について学ぶ。
	期末テスト	
後期	演奏	・各専門分野の劇と音楽の関わりについて理解する。
	楽典	・音楽の様式の特徴とその変遷について理解する。
	聴音・ソルフェージュ	・音の聴き取りと正しい音程の歌唱について学ぶ。
	卒業テスト	

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	美術Ⅲ		一斉	4単位

教科書 美術3（光村図書）	副読本 なし
目標・ねらい 美術の創造活動を通して、表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術についての理解を深め、生涯にわたって美術を愛好する心情を育てる。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・毎回、タブリエを持参すること。 ・授業の進度により課題の出る場合がある。 ・各種コンクールへの参加は自由。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
関心・意欲・態度	30	提出物(20) 平常点(10)
発想・構想の能力	30	提出物
創造的な技能	30	提出物
鑑賞	10	平常点・レポート

年間授業計画表

	単元	目標
前期	立体制作(灯り) グループ制作	・近年環境デザインの中でも「ひかり」の効果を取り入れられていることや、生活の中での「ひかり」の重要性を知り、制作する。 ・聖書の一場面を題材に、一人ひとりが役割を果たし、協力し合って大作を作ることができる。
	デッサン、人物クロッキー	基礎描写力を高める。
後期	卒業制作 各自で題材決定	・最後の集大成として、何を制作したいかを自分で考え、材料の準備、制作工程など計画して制作・鑑賞することができる。
	卒業制作	

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	書道Ⅲ		一斉	4単位

教科書 書道Ⅲ（光村図書）	副読本 なし
目標・ねらい 書道Ⅰ・Ⅱで学んだことを応用し、自己の感性に基づいた表現を試みる。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・基本的に宿題は出さない。 ・各自で年間計画を立案し、それに沿って各自の制作に取り組む。 ・定期テストは行わない。必要に応じて、授業の中で小テストを行う。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
技能・表現	80	作品
知識・理解	10	小テスト
鑑賞	10	レポート(書道展)

年間授業計画表

	単元	目標
前期	文字の変遷の歴史を学ぶ 各自希望による制作 ・大字作品 ・近代詩 ・古典(仮名) ・半切作品(篆・隸・楷・行・草) ・篆刻	各自の予定の中で選択し、各自の進度で実施する。
	外部出品作品の制作	
後期	実用書(冠婚葬祭・手紙等)	硬筆と毛筆による実用書の書き方を学ぶ。

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校3年	体育		3分割	3単位

教科書 ステップアップ高校スポーツ　（大修館書店）	副読本 なし
目標・ねらい 自己の能力に応じた運動を選択し、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・年間を1期から3期に区分、各期3種目を指定して、その中から自己の能力に応じた種目を選択する。 ・合同体育の成績について 前期の合同体育は1期(1種目)、後期は2期と3期(2種目)を実施する。「評価について」の「実技」は、各期を25点で算出し、前期は1期25点を2倍して50点と単独体育10点の計60点で通知する。後期は2期25点と3期25点の和50点と単独体育10点を合わせる。しかし、このままだと各期の比重が均一ではないので、最終的な学年総合成績では、各期の比重が1:1:1になるように換算して通知する。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
実技	60	実技
定期試験	30	定期テスト
平常点	10	出席率

年間授業計画表

	単元	目標
前期	体育祭準備	・行進の向上 ・ラジオ体操第2の動作の徹底 ・体育祭の準備
	卓球	・フォアハンド、バックハンド、スマッシュなど各ショットをラリーの中で使い分けることができるようにする。試合の審判、進行ができるようにする。 ・作戦やフォーメーションを考えながらゲームを行うことができる。
	ハンドボール	・場に応じたパス・シュートをすることができる。 ・作戦やフォーメーションを考えながらゲームを行うことができる。
	(単独体育) バレーボール 期末テスト	
後期	ソフトボール	・投げる・捕る・打つという基本動作を向上させる。 ・試合で攻撃・守備を確実にこなせるようにする。 ・審判をできるようにする。 ・基本のパスをコントロールし、三段攻撃のゲーム展開ができる。
	バレーボール	・ルールを理解して審判ができ、自分達でゲームを進め楽しむことができる。 ・場に応じたパス・シュートをすることができる。
	インディアカ 縄・ゲート (単独体育) バドミントン 卒業テスト	・基本技術の習得(パス、アタック、サーブ)。パスをつなぎ、アタックで攻撃ができる。インディアカのルールを理解し、安全にチームで協力した学習やゲームができる。 ・大縄やダブルダッチなど跳び方を工夫して楽しく持久力を高める。ゲートボールのルールを理解し、作戦を立てながらゲームを楽しむことができる。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	体育研究		一斉	2単位

教科書 ステップアップ高校スポーツ　（大修館書店）	副読本 なし
目標・ねらい 運動について考え、運動の楽しさや喜びを味わうことが出来るようにするとともに、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・怪我の防止…準備運動の徹底。 ・見学届は事前に提出すること。 ・ペーパーテストは各単元終了時に授業時間内で行う。 ・生涯スポーツについての研究発表を行う。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
実技	60	実技
知識	30	ペーパー試験
平常点	10	出席率

年間授業計画表

	単元	目標
前期	(オリエンテーション) ・探求学習:生涯学習とは? ・年間で実施する種目の選定 種目の実施 ※定期的に探究学習の時間を設ける	種目の実施と調べ学習から、生涯スポーツについて考える
	種目の実施 ※定期的に探究学習の時間を設ける	種目の実施と調べ学習から、生涯スポーツについて考える
後期	種目の実施 ※定期的に探究学習の時間を設ける	種目の実施と調べ学習から、生涯スポーツについて考える
	種目の実施 (調べ学習) ・成果を発表する ※定期的に探究学習の時間を設ける	種目の実施と調べ学習から、生涯スポーツについて考える

履修学年	科目	自由選択	授業形態	単位数
高校3年	食物特講		一斉	2単位

教科書 家庭基礎　（大修館書店）	副読本 ニュービジュアル家庭科　（実教出版）
目標・ねらい 高校生として身につけるべき栄養に関する知識の定着をはかるとともに、日本の食を取り巻く現状について把握し、望ましい食習慣の形成や食事の意義と役割について理解を深める。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 授業の後半は各自でテーマを設定し、調査・研究を行う。自身のテーマについて積極的に情報収集・考察し、食のあり方についての考えを深めることができるよう努めること。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
知識理解	60	テスト(授業内実施)
平常点	40	提出物、課題への取り組み状況

年間授業計画表

	単元	目標
前期	栄養素のはたらきと食事計画	栄養素の体内での機能と、代謝及び食品との関連を理解する。 食事摂取基準の意義を考え、献立作成に活用できるようにする。 各年齢期における身体的特質や生活の実態を踏まえ、健康を保持増進し、病気を予防するための栄養の重要性を理解する。
	献立作成と栄養価計算	食事摂取基準の意義を考え、献立作成に活用できるようにする。栄養・嗜好・季節感・経済・調理時間を考慮し、目的に応じた献立の作成と栄養の評価を行うことができる。
	食を取り巻く現状①	日本の健康や栄養状態の現状について把握し、健康な食生活についての課題を考えることができる。
後期	食を取り巻く現状②	日本の食生活が外部化していることや、食料自給率及び食のグローバル化などの食料事情について知り、安全や地球環境に配慮した食のあり方について考える。
	食品の特徴と性質	各食品の特徴及び調理性について学び、食品中の成分が加熱などの調理操作によって変化し、食味に影響することを理解する。

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	情報研究A		分割	2単位

教科書 社会と情報（東京書籍）	副読本 各自、課題に合わせて用意する
目標・ねらい ・情報発信と表現について、より高度な課題に取り組み、実践的な知識技能を身に付ける。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・各自が目標を決めて、高度な実習課題を作成する。作成物の難易度と完成度から平常点を採点する。(作品例:Webページ、マルメディアコンテンツ、動画編集 など) ・プレゼンテーションスキルを身に付ける。 ・上記の課題作成の為に、発展的な学習を行う。 ・実習中心の授業形態となるので、座学の時間は授業進行が速くなる。座学の前は必ず指定範囲の教科書・テキストを読んで概要を把握しておくこと。 ・定期試験は、前期の期末試験及び卒業試験のみ行う。 ・授業を欠席した場合は、登校した日に授業内容の確認に来ること。 ・提出物は期限厳守。未提出や提出遅れは大幅な平常点減点対象となるので注意すること。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	30～40	期末テスト及び卒業テスト
平常点	60～70	実習課題、ワークシート等提出物、授業態度

年間授業計画表

	単元	目標
前期	オリエンテーション コンピュータとデジタル 実習課題作成	どのような作品を作るかなど、目標を定める。 コンピュータで扱うデータの特性を学ぶ。 ヨゼフ祭で展示する実習課題作成を行う。
	期末テスト	
後期	HTML5とCSS3 実習課題作成 プレゼンテーション	最新のHTML言語について学ぶ。 卒業に向けての実習課題作成を行う。 作成した課題についてのプレゼンテーションを行う。
	卒業テスト	

履修学年	科目	選択必修	授業形態	単位数
高校3年	情報研究B		分割	2単位

教科書 社会と情報（東京書籍）	副読本 新「情報」活用テキスト その他、各自、課題に合わせて用意する
目標・ねらい ・調査書に記載できるような、IT系の資格取得を目指す。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・P検3級以上、MOS検定、ITパスポート試験等、調査書に記載できるIT系の資格取得を目指す。 取得を目指す資格の難易度と理解度から平常点を採点する。 ・上記の資格取得の為の、発展的な学習を行う。 ・実習中心の授業形態となるので、座学の時間は授業進行が速くなる。座学の前は必ず指定範囲の教科書・テキストを読んで概要を把握しておくこと。 ・定期試験は、前期の期末試験及び卒業試験のみ行う。 ・授業を欠席した場合は、登校した日に授業内容の確認に来ること。 ・提出物は期限厳守。未提出や提出遅れは平常点の大幅な減点対象となるので注意すること。	

評価について

項目	割合	授業時における項目
定期試験	30～40	期末テスト及び卒業テスト
平常点	60～70	実習課題、ワークシート等提出物、授業態度

年間授業計画表

	単元	目標
前期	オリエンテーション 情報機器の発達とそのしくみ デジタル化とマルチメディア 資格取得に向けた個別学習	取得を目指す資格などの目標を定める。 情報機器の発達の歴史、コンピューターの仕組みなどを学ぶ。 デジタル情報を取り扱う上で、注意すべきこと、考える必要があることを学ぶ。 各自の目標に合わせ、資格取得に向けての学習を行う。
	期末テスト	
後期	資格習得に向けた個別学習 情報社会と問題解決(まとめ) 卒業テスト	各自の目標に合わせ、資格取得に向けての学習を行う。 これから情報化社会を生きていく中で、必要な知識、考えるべきことは何かを学ぶ。

履修学年	科目	必修	授業形態	単位数
高校3年	宗教		一斉	1単位

教科書 聖書 新共同訳続編つき（日本聖書教会）	副読本 なし
目標・ねらい ①学園の建学の精神に触れ、キリスト教の基礎的な知識を身に付ける。 ②キリスト教の歴史を理解する。 ③聖書に触れ、神のメッセージを学ぶ。 ④生徒一人ひとりが神に愛されていることを実感させる。	
注意事項(学習方法・長期休業の課題など)	

評価について

項目	割合	授業時における項目
宗教への興味・関心	20	修養会ノート、課題
キリスト教についての知識・理解	60	期末試験
キリスト教的価値観を表現する力	20	レポート、授業のノートなど

年間授業計画表

	単元	目標
前期	・神の愛 自由について ルカ福音書「放蕩息子」 ・選択 母の愛 (1)中村久子とヘレンケラー (2)パブロカザルス「平和」 ・修養会について (1)結婚について (2)愛について	・父なる神の大いなる愛 真の自由と選択 ・タラントンのたとえを理解する ・自己の可能性と平和の尊さを確認 ・指導司祭の紹介とテーマの確認 自己から他者に向けて愛の大切さを理解する。
	・愛とユーモア パッチアダムス ・アルフォンソ・デーケン神父の死生学 ・生命の重み オランダ「安楽死」問題を通して 夫婦の愛について 期末テスト	・VTR「パッチアダムス」 夢の実現と自己の可能性 ・ユーモアと死の哲学(カトリック的な立場から) ・現代における生命倫理の諸問題
後期	・神の愛「自己受容」 映画「フォレストガンプ」を通して 6年間を振り返って 卒業テスト	・現状を受け入れながら、目標に向うことの大切さを理解する。